

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 401 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2017.06.01（火）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 980 部\*\*\*\*\*

□ 目次 □-----

<巻頭言> 「減反政策」廃止に思う——どの作物も「本作」に 塩谷哲夫

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.140』発行されました

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<編集後記> 私たちは被災地とどうつながりつづけるか

---

<巻頭言> 「減反政策」廃止に思う——どの作物も「本作」に

---

日本の農業と言えば「水田」、「コメ」という印象が強いのではないかと思います。たしかに、日本の農地面積 452 万 ha のうち過半の約 55.7% を水田が占めている（H26 年）。約 7 割の農家がイネを作っているが、水田面積にすれば 64%（全体の農地面積の 36%）に過ぎない。農業総算出額 8.8 兆円の内訳を部門別にみると、コメは第 3 位の 17% しかない。第 1 位は畜産部門の 35%、2 位は野菜の 27%。次は果実 9% である。

これは国民の食生活の実態を反映したデータでもある。戦後日本の食生活改善は、パン給食に始まって“洋食化”を目指して展開されてきた。食の素材を日本の農地を活かした国産農産物に依拠して進めればよかったが、そのようにはならなかった。日本の農業振興を疎かにし、食料自給という大義を忘れ、輸入農産物への依存を進めた（畜産の飼料農産物も含めて）結果、国産農産物による食料自給率は 39% となっている。

政府は、主食の“コメ余り”と日本農業の象徴である“水田”の維持という対立する悩ましい矛盾を一気に解消するために、「減反は廃止する。あとは強い農業にお任せします。ご自由にどうぞ」という政策転換を来年度から実施すると宣言した。これは国家として担うべき責任の放棄である。

しかし、皮肉にも、ようやくコメ（水田稲作）の呪縛下にあった日本の農業構造に变革のチャンスが訪れたと言えるのかもしれない。

水田は排水機能を整備すれば、灌水して水田に、排水して畑にと、田畑を輪換できる「汎用水田」になる。現在、わが国の 246 万 ha の水田の 44%、108 万 ha が、排水開始後 3 時間で地表下 72cm まで畑地にできる「汎用水田」として整備されている。

私は水田の「汎用化」に期待している。そこでは、水田にしてイネを作り、畑にして、ダイズ、イモ類、飼料用トウモロコシ、野菜などすべての作物を「本作」として栽培することができる。一部の湿田などを除いて、なるべく多くの水田が「汎用化」されてほしい。そして、水田での穀物や野菜の「本作化」が、日本農業全体の構造を考える契機になってほしいと思っている。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事・東京農工大学名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.140』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.140』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）

先生は忙しすぎる◎高梨雅人

[第 155 回定例（現地）研究会] 玉川上水を巡る

玉川上水と武蔵野台地の変貌◎渡邊 博

玉川上水の奇跡「ひとくい川」◎安富六郎

[第 156 回定例研究会] 自然災害と文化・技術

I 「地震・雷・火事・親父」考◎大橋欣治

[特別寄稿]

人の生活の身近にあった水辺環境を取り戻すたかひ◎石川幹子

美しい福島の農村を取り戻すために◎浅見彰宏

FECの自給をめざして、とくにEのこと◎鈴木孝夫

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(11)

農の本質への道／宇根 豊

---

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

---

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

農文協、199ページ、定価1700円(税別)

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

※山崎農研HPに関連記事を掲載しています。

玉川上水の奇跡「ひとくい川」(第3話)連載 安富六郎 著

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No10.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No10.pdf) 第8話

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No9.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No9.pdf) 第7話

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No8.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No8.pdf) 第6話

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No7.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No7.pdf) 第5話

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No6.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No6.pdf) 第4話

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No3.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No3.pdf) 第3話

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No2.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No2.pdf) 第2話

[http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui\\_No1.pdf](http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No1.pdf) 第1話

---

<編集後記> 私たちは被災地とどうつながりつづけるか

---

編集を担当した『聞く力、つなぐ力』(日本農業普及学会編著)の刊行記念シンポジウム(「私たちは被災地とどうつながりつづけるか」)に参加した(05/20)。

第1部は、本書の解説を執筆した宇根豊氏（農と自然の研究所代表）と山下祐介氏（首都大学東京准教授）の対談、そして第2部は、古川勉氏（元大船渡農業改良普及センター所長）と行友弥氏（農林中金総合研究所特任研究員）をくわえての被災地農業の復興に関する報告である。

宇根さんは、この本には、2つの視点（まなざし）があるという。それは「外側からのまなざし」と「内側からのまなざし」である。前者は、復旧・復興や除塩、除染を客観的に語るまなざしであり、後者は、震災後、どうしてよいかわからない農家からの不満をただただ「聞くしかなかった」という普及員のありようをしめしている。そして、普及指導員は、もともと“公務”の枠からはずれる／はみでる傾向にあるが、本書を読んでもそのことがよくわかったと。

山下さんは震災当時、青森県にいた。さまざまな支援活動を行うなかでたくさんのお会いがあり、それがいまの仕事にもつながっている。“公務員はみんなダメだ”と思い込んでいた山下さんの意識を変えるきっかけとなったのが、普及指導員との出会いだった。現場の人々ときちんと向き合う公務員の存在は山下さんに感銘を与えたという。

参加した学生からは「これから被災地とどうかかわりつづけたらよいか教えてほしい」との質問があった。登壇者はそれぞれの言葉で真摯に答える。「最初から結論をもちかかわりつづけていけばいいと思う」（行友）、「普及員の立場としては“協働”だと思う。ぜひ普及指導員をめざしてほしい」（古川）、「支援ではなく交流でいくのがいいと思う」（山下）、「ひとつの場所に通いつづけるのが大事だと思う」（宇根）。

最後に宇根さんはこう述べた。「生きる場、生きる世界、生きる共同体——とりもどしたいけれどもとてもむずかしい」。むずかしいということを経験すること、だからこそ、つながりつづけることを確認し合うこと、そのことに今回のシンポの意味はあったようにわたしは思う。

『聞く力、つなぐ力

3.11 東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける普及指導員たち』

日本農業普及学会 編著

古川勉 著／行友弥 著／山下祐介 著／宇根豊 著

発売：農文協

定価：2,376円（税込）

ISBN コード : 9784540161780

発行日 : 2017/03

出版 : 農文協プロダクション

判型/頁数 : 四六 252 ページ

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_54016178/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_54016178/)

<https://www.amazon.co.jp/dp/4540161784>

2017年06月01日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売 : 2008/11 定価 : 1,575 円 )

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ : 大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ : 代替案 書評 : 『自給再考 — グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ : 囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評 『自給再考』

<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ : 本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

[http://www.csj.jp/learned-society/check/new\\_but/jisx0208-sjis.html](http://www.csj.jp/learned-society/check/new_but/jisx0208-sjis.html)

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 402 号の締め切りは 06 月 12 日、発行は 06 月 15 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 401 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2017.06.01（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*